

TOEIC Listening & Reading テスト[®]対策オンライン授業の総括

田 岡 千 明

Summary of TOEIC Listening & Reading Test[®] Preparation Online Courses

TAOKA Chiaki

要 旨

本稿ではコロナ禍において主にオンライン（遠隔）授業で実施された本学共通英語教育プログラムにおける TOEIC L&R テスト対策関連コースについて振り返る。3 セメスター15カ月にわたる一連のコースの概要を述べたのち、コースを受講した2 学年（2020年度入学生と2021年度入学生）の IP-TOEIC スコアの推移を調べ、受講生のアンケート結果についてまとめた。オンライン中心の授業において、コース最終の TOEIC スコアや学生の入学時からの TOEIC スコアの伸びは例年通りの高い水準を維持しているものの、1 年次9 か月間でのスコアの伸びに比べ2 年次前期までの後半6 か月のスコアの伸びは低いことが明らかになった。また学生への自由記述のアンケート結果では、3 セメスターすべて遠隔授業を受講した2020年度入学生については対面授業とオンライン授業どちらがよいかについての意見は同じ程度であったが、最後の1 セメスターで対面授業を受講した2021年度入学生についてはより多くの学生がオンライン授業よりも対面を希望していることが分かった。

キーワード：TOEIC L&R テスト、遠隔（オンライン）授業、対面授業、スコアの伸び

Abstract

This paper reviews the TOEIC L&R Test Preparation Course, a series of 3-semester (15-month) courses offered mainly online by the English Education Research Center during the COVID-19 pandemic in the academic years 2020 and 2021 based on the students' IP-TOEIC scores and feedback on the course. The data of the subjects' TOEIC scores show substantial improvement over the entire course, as in the previous years, but they also clearly indicate much less improvement in the last six months than in the first nine months. Students' responses to the open-ended questionnaire indicate no difference in preference for online vs. face-to-face classes among online-only students, but do show an appreciation of and desire for face-to-face classes among students in the 9 month-online/6 month-on-campus course.

Keywords: TOEIC L&R Test, remote (online) classes, face-to-face classes, score improvement

1. はじめに

共通英語教育センターでは、英語を専門としない総合文化(I)学科、音楽(M)学科、心理・行動科学(P)科、環境・バイオサイエンス(B)学科の1、2年生を主な対象とし、2014年より新カリキュラムで共通英語教育を行ってきた。ESP（専門分野の英語）教育、オーラルコミュニケーション教育、英語資格・検定試験指導を重要な3本の柱としている。英語資格・検定試験指導のひとつとして就職時にスコアが高いとある程度有利とされ、また大学院によっては一定のスコアを要件としている TOEIC Listening & Reading (L&R) Test 対策を必修授業として行うと同時に同テストを学生の英語力を測る指標として用いてきた。シラバスを統一した形で教育を行い、入学時から2年次前期終わりの約15か月の間に学生の平均で約70点前後のスコア上昇という成果を上げてきていた（神戸女学院大学共通英語教育研究センター，2020）。そのような中、新型コロナウイルスにより、2020年度より急速遠隔授業への移行を余儀なくされ、手探りの状態でのオンライン授業が始まった。共通英語教育センターでは2年間にわたる完全オンライン（遠隔）授業を経て2022年度前期より基本対面授業に戻った。ただ、教育の在り方は今後コロナ禍前と全く同じに戻るわけではなく、このオンライン授業で得た新たな見識と見地を活用して次の時代により効果的な教育を目指していく必要がある。

本稿ではこの過去2年間と半期にわたる TOEIC L&R Test 対策オンライン授業を総括する。第2節ではオンライン授業での変更点を含む TOEIC 対策カリキュラムを概観し、第3節ではオンライン授業を受講した2020年度入学生と2021年度入学生の IP-TOEIC テスト¹⁾の平均点の推移を見る。第4節では2年次前期終了に学生に任意回答してもらったアンケート結果を示し、TOEIC L&R Test 対策カリキュラムの問題点を論じ今後の改善点を検討する。

2. TOEIC L&R Test 対策関連コース

2.1 全体の流れ

2016年度以降の TOEIC L&R 対策は入学前教育と3セメスター、そして3回にわたる IP-TOEIC (L&R)（以下 IP-TOEIC または TOEIC と省略する）のテストから成っている。まずは入学前教育で IP-TOEIC テストへの導入として TOEIC の Part 1 対策、そして入学時に IP-TOEIC を受験（1回目）、1年次前期 GE151(1) Reading and Writing English（週2回授業）のうち週1回を使って TOEIC の問題を使用した文法対策と読解を行う。この科目は2021年度より週1回の2科目に分かれ、TOEIC 対策部分は現在 GE153(1) Reading and Writing English B となっている。このコースでは TOEIC の問題を使用するものの、TOEIC 対策、つまりテクニックを駆使し、スピードを意識した問題の解き方を中心に勉強するのではなく、なぜその解答になるのか文法項目の基本を押さえながら、そして読解の Part 7 ではじっくり単語と構文を押さえながら精読的に読む練習を行う。スラッシュリーディング（または

1) IP-TOEIC は本稿では TOEIC Listening and Reading Test の団体受験版を指す。

表1 TOEIC 対策プログラムの概要

- | |
|---|
| <p>1. 入学前教育
 入学時 IP-TOEIC 1 回目受験（成績は1 年次のクラス分けに使用）</p> <p>2. GE151(1)/GE153(1)（IMPB 学科 1 年次前期の必修授業）</p> <p>3. GE131(2)（IMPB 学科 1 年次後期の必修授業）
 1 年次12月の IP-TOEIC 2 回目受験（成績は GE131(2)の成績の30%に組み込まれる）</p> <p>4. GE231(1)（IPB 学科 2 年次前期の必修授業）
 2 年次 7 月の IP-TOEIC 3 回目受験（成績は GE231(1)の成績の30%に組み込まれる）</p> |
|---|

チャンキング（門田他，2010）ともいう）という意味のユニットごとに斜線を引きながら、まとまった単位の英語を英語の順番で読んでいく方法で、TOEIC に出てくるようなビジネス英語に慣れつつ、基本の読解力をあげていく。そして1 年生後期の GE131(2) English for International Communication (I)で本格的な TOEIC 対策へとつなげる。このコースでリスニングパート対策の導入、そしてより実践的に TOEIC のパート別攻略法を確認しながら問題演習を行い、1 年次後期12月に IP-TOEIC を受験する（2 回目）。そして2 年次前期で IPB の3 学科の学生は GE231(1) English for International Communication (II)を必修科目として受講する。パート別攻略法を復習しながら多くの実践問題を解き、力をつけ、2 年次 7 月に再び IP-TOEIC を受験する（3 回目）という流れである。これにより入学時から2 年生 7 月までの15か月間の3 回の IP-TOEIC テストにおいてどれほどスコアの数字が伸びたのかを検証する。表1 は例年の流れを示したものである。コロナ禍での変則的な部分については後述する。

2.2 入学前教育

入学が決定するタイミングは学生によって異なるため、できるだけ負荷が低く、学生のやる気を削がない内容で、かつ必ず役立つという理由から TOEIC Part 1 のリスニング写真描写問題に頻出の単語を覚えることを入学前課題としている。2 年次前期まで使用する TOEIC 頻出の630語を Part 別に分類した『TOEIC[®] TEST 英単語出るとこだけ！』（小石，2016a）のテキストを用いて学生は Part 1 の90語を覚える²⁾。同時に Part 1 での重要4 構文パターン（現在進行形、受動態の現在進行形、受動態の現在形、受動態の現在完了形）についても配布する別資料で勉強する。この内容は1 年次前期必修 GE151(1)/GE153(1)の最初の単語テストの範囲となる。

2.3 1 年次前期（2020年度までは GE151(1)、2021年度より GE153(1)）

2020年度は全授業オンラインへの突然の移行による混乱の真ただ中で、入学時の IP-TOEIC は中止となり、能力別編成のクラスとはならなかったため、シラバスは全クラス同じとした。また授業回数が13回となったため、授業内容でカバーする範囲も短縮せざるを得なかった。入学前教育の Part 1 の単語テストは行えなかった。それまで紙ベースで行っていた

2) この本は頻出別だけではなくトピック別にも構成されており、トピック別の語彙学習（望月他，2003）に役立つと考えられる。

単語テストは Moodle®（本学で使用している学習管理システム（LMS））の小テストを使用し、前述の『TOEIC® TEST 英単語出るとこだけ！』の Unit 5 Set 1 から Set 6（Part 5 単文穴埋め問題（主に文法問題）に頻出の語彙）のテストを 6 回行った。ひとつの Set に単語が 15 問あるので、英語から日本語の組み合わせ問題を 15 問出題した。2 分制限のテストを 2 回まで受験できるようにし、2 回のうち点数が高い方を最終点数とした。さらに同テキスト Unit 8 の語法問題から 5 セットをそれぞれ組み合わせ、多肢選択問題を 3 回行った。30 問程度で制限時間は 5 分とし、2 回の受験機会を与え、点数が高い方を最終点数とした。いずれのテストもオンラインのテストということで不正防止の観点からきちんと準備し単語を覚えた上でギリギリ答えられる程度の短い制限時間とした。文法のテキストは『TOEIC® TEST 英文法出るとこだけ！』（小石, 2016b）を使用し、TOEIC でも頻出であり、また英文読解にも重要となる文法項目を優先的に取り扱うこととし、品詞、動詞、接続詞を中心にシラバスを組んだ。読解問題対策としては『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 1』（English Testing Service, 2016）を使用した。これには 200 問から成る実際と同じ形式とレベルのテストが 2 セット掲載されており、その Test 1 Part 7 の読解問題 Q147 から 185 まで（1 つの文書と 2 つの文書問題）を取り扱った。2020 年度は 1 週 2 回の授業の 1 回分がこのような TOEIC を利用した文法と読解演習のクラスであったため、成績は GE151(1) の半分を占め、単語テストで 15%、最後の TOEIC 文法・語彙テストで 15%（Moodle® の小テストを利用した既習の文法選択問題と Reading で勉強した単語の組み合わせ問題）、そして各担当教員の裁量分 20% とした。授業で進む範囲は決めていたが、オンライン授業での授業のフォーマット（Zoom® などの同時双方向型かオンデマンド型か）について統一はせず、課題の内容についても特に指示はしなかった。

2021 年度入学生については入学前の 3 月に IP-TOEIC を実施できたこともあり、例年通り学科別のクラス編成とした。I 学科は 3 レベルの能力別編成（上位レベル 2 クラス、中位レベル 4 クラス、下位レベル 2 クラス）、MPB 学科についてはそれぞれ 2 レベルの編成（PB 学科では上位レベル 1 クラス、下位レベル 2 クラス、M 学科は上位下位それぞれ 1 クラス）となっている。使用するテキストはどのクラスも 2020 年度と同じであったが、レベルに応じて勉強するテキストの範囲を変えた。シラバスの進行表を 3 つのレベルに分け、中位クラスを軸にシラバスを組んだ。文法については、2020 年度と同様、品詞、動詞、接続詞を中心にした上で 15 週の授業回数に合わせて代名詞の分野を付け加えた。下位レベルのクラスはそれぞれ品詞、接続詞、代名詞の項目で複雑な部分を学習範囲から外した。読解問題についても使用テキストは 2020 年度と同様であったが、Test 1 を問題の順番に取り組んでいく代わりに、文書タイプごとに体系的に学生が取り組んでいけるようにした。「シンプルなお知らせ・表」、「オンライン上のやりとり」、「広告・案内・お知らせ」、「通信文」、「記事」という順番で読む量や難易度をあげていく構成にし、それにあたる文書をテキストの問題からそれぞれ演習問題として選択した。上位レベルでは取り組む問題の数を増やした。単語テストは Moodle® の小テスト機能を利用して入学前の課題 Unit 1 の Set 1 から Set 6 の単語テストを 1 回、Unit 5 の Set 1 から Set 6 を 1 回行い、単語アクティビティーを 10 回行った（Unit 5 Set 1 から Set 6、Unit 6 Set 6、Unit 8 Set 3 から 5）。アクティビティーでは指定期間内に満点がとれるまで何度でも挑戦できるよう

にし、満点をとった場合にのみ最終点数に組み込まれるというシステムにした。このことで単に単語テストの点数が悪いままになってしまわず単語の定着率を高めるようにした。また単語の組み合わせ問題は日本語から英語を選ぶようにさせ、英語のスペルを意識させることにも気を遣った。学生は似たスペルの単語を同じ単語と間違えて認識しやすいため、日本語ではなく英語を覚えさせることを意図したものである。2020年度と同様各担当教員によってオンライン授業の形式は異なった。成績については2021年度より GE153(1)として独立した科目となったため、共通の期末テスト（Moodle[®] 使用のオンラインテスト）40%、単語アクティビティー&テスト20%、ATR CALL BRIX[®]（eラーニング教材）課題5%、Zoom[®] 出席、課題とその他の各担当教員が設定する裁量分を35%とした。

2.4 1年次後期（GE131(2)）

2020年度の使用テキストは引き続き1年次前期と同じものを使用し、また各担当教員のオンライン授業の手法についても特に指定はしなかった。クラスも能力別ではなかった。前述したように、1年次後期のこのコースよりリスニング問題も導入する。リスニング・リーディングパートどちらについてもいわゆる TOEIC Part 別対策法を説明した上で問題に取り組むよう指導した。共通で準備した配布資料で、各 Part 攻略法について説明した後、公式問題集の Test 2 の問題を実際に学生に解かせて、解説するという手法をとった。Listening Part 1 については1週、Part 2、3、4 については3週間かけてじっくり進めていった。1週で9問程度取り組んでいく割合である。文法については最初の2週でそれぞれ前置詞と関係詞を取り扱った。Reading 問題は Part 6 の長文穴埋め問題にも新たに組みつつ、Test 2 の Part 7 のひとつの文書問題と二つの文書問題（Q147から185）を演習問題として使用した。TOEIC 受験のひとつの戦略として時間がないときにどの問題に取り組むべきかといった優先問題についても資料を使用して解説した。単語については勉強の範囲を Unit 2 Set 1 から Set 6（Listening Part 2 の頻出単語）、Unit 3 Set 1 から Set 6（Listening Part 3 の頻出単語）とし、満点を取れるまで挑戦できる単語アクティビティーを12回（日本語から英語）と Unit 2、3 それぞれのまとめの単語テストを2回（2回受験の上最終点数は平均点を取る）行った（詳しくは1年次前期を参照）。Moodle[®] を使用しての活動であり、やはり時間設定は短めとした。成績評価については、IP-TOEIC の成績を30%換算、単語アクティビティーとテスト20%、ATR CALL BRIX[®] の課題10%、その他各担当教員の裁量分（自由設定）40%とした。

2021年度については1年次前期と同じレベル分けて授業を行った。成績評価については上記2020年度と同様で、遠隔授業のやり方についての指定もしなかった。基本的に2020年度の進め方と変更はないが、読解問題の Part 7 については、テキストの問題を順番に解いていくのではなく、文書タイプや問題タイプ別に体系的に分けて学生に取り組ませた（「表・アンケート」「広告・案内・お知らせ」「通信文・オンライン上のやりとり」「複数の文書問題」の順番）。また学生のクラスもレベル別に分けたことから取り組む問題数や問題の難易度も各レベルに応じたものとした。

2.5 2年次前期 (GE231(1))

2021年度と2022年度はほぼ同じ形で授業を進行させた。この科目はIPB学科の必修でM学科の学生は履修しない。2021年度と2022年度の違いは、授業形式である。2021年度はすべて遠隔授業で、そのオンラインの形式については指定していなかったが、2022年度は基本対面となった（ただし2クラスは担当教員の事情により遠隔授業であった）。また、2022年度よりATR CALL BRIX®の使用を停止したため、2021年度入学生の成績においてATR CALL BRIX®の課題5%分が各担当教員の採点分となった（35%から40%）。レベル別授業を行うのはI学科のみで、1年次後期のIP-TOEIC成績により3レベル（上位2クラス、中位4クラス、下位2クラス）に分かれている。シラバスについては取り組む問題の数や難易度を変更しているが、PB学科はレベル分けしていないため、I学科の中位クラスと同じにしている。使用テキストは1年次から使用している単語テキストを使用し、Moodle®上での単語アクティビティー12回と単語テスト2回で、範囲はUnit 4（TOEIC Part 4に頻出の単語）とUnit 7（Part 7に頻出の単語）とした。これでこの単語テキストをUnit 1からUnit 7まで3セメスターで網羅したこととなる。TOEIC L&R 公式問題集についてはVol. 3を新たに使用した。1年次とは異なる問題で、各Partの攻略法を復習しながら実践形式で練習を積んでいく。成績評価については、IP-TOEICの成績を30%換算、単語アクティビティーとテストで20%（Moodle®オンライン上）、共通の文法・確認小テスト10%（授業で取り扱ったところの復習をMoodle®オンライン上で実施）、その他各担当教員の裁量分（自由設定）が2021年度は35%、2022年度は40%であった。2021年度の残りの5%はATR CALL BRIX®課題によるものとした。

3. IP-TOEIC 結果の推移

3.1 IP-TOEIC オンラインテスト 結果と考察

以下の表2と表3が2020年と2021年度入学生が受験した5回のテストについての平均点である。新型コロナウイルスのため、これらは全てオンラインによるテストとなった。尚2020年度は、同感染症の影響により、4月1日の新入生対象IP-TOEICは中止となっている。また、オンラインとなったことにより通常12月に行われていたテストは1月実施となった。

IP-TOEIC オンラインテストでは筆記のテストと比べ、経験則的に30点程度高い点数が得られるようである。例えば本学で過去に行われた筆記試験の新入生（IMPB学科）のスコア平均は15000台生329点、16000台生336点、17000台生338点、18000台生344点、19000台生346点である。これら学生の2年次の平均点はそれぞれ403点、420点、413点³⁾、410点、443点⁴⁾である。考えられる理由として、筆記試験が2時間200問の試験に対してオンラインでは1時間90問であるのが大きいであろう。特に400点から500点程度の受験者であれば分からないまたは解けない問題も多く、1時間余分にある試験時間で倍の問題を解くことで集中力とやる気を削がれ、また居眠りをしやすくなってしまうことは十分考えられる。オンラインテストで考えられるマイナ

3) 17000台生は7月に予定したテストは大雨のため実施できなかったためこのスコアについては1年次12月のものである。

4) 19000台生の2年次のテストはオンラインであった。

表 2 2020年入学生平均スコアの伸び

2020年入学生	2020.4	2021.1	2021.7	6 か月間の伸び
総文	—	453	473	20
音楽	—	375	395	20
心理・行動	—	436	454	18
環境・バイオ	—	425	446	21
4 学科全体	—	438	459	21

表 3 2021年入学生平均スコアの伸び

2021年入学生	2021.3	2022.1	9 か月間の伸び	2022.7	15か月間の伸び
総文	390	463	73	478	88
音楽	362	449	87	443	81
心理・行動	374	454	80	451	77
環境・バイオ	379	430	51	436	57
4 学科全体	381	452	71	461	80

ス要因、例えば慣れないコンピューター画面上で受験することや、リスニング問題の Part 3 会話問題と Part 4 説明文問題で問題が先読みできないということを差し引いたとしてもオンラインテストの方が受験者にとってより容易であることは十分に考えられる。

2021年度入学生の15か月間の平均の伸び80点は例年と比べ顕著には変わらない。15000台生の伸びは74点、16000台生では84点、18000台生では66点である。2021年度入学生は2セメスター1年間のオンライン授業と2年次前期での対面授業ではあったが例年と比べ教育効果に大きな差はなかったと考えられる。残念ながら2020年度入学生については未受験のため入学当初のデータがなく、1年次1月から2年次7月までの6か月間のスコアの伸びは、各学科の平均も4学科合わせた平均も20点程度であった。ただ1年次前後期とTOEIC対策の英語の勉強をしてからの1年次1月の受験ですでに平均が400点を超えてのスタートであったのでこの結果は、ある程度当然のことと考えられる。以下の図1と図2に推移を示す。

いずれにおいても折れ線グラフ全体が右側の点数の高い方に多少移動しているものの、2021年度生において入学時から1年次1月の伸びに比べて2年次までの後半6か月間のスコアが停滞している。2年生ではTOEIC対策のクラスがないM学科は仕方ないとしても、P学科では3点マイナスとなり、B学科では6点プラスであるだけである。唯一I学科は15点という2020年度入学生1年次1月から2年次7月までの平均と同じような伸びをみせている。I学科、そしてP学科B学科を合わせたものでこの2回のテストを比べてみると以下の図3と図4のようになる。

図3と図4からは、ほとんど点数と人数部分に変わりはないように見えるが、唯一I学科の中間層あたりが高得点のほうに移動している。更なる調査は必要ではあるが、レベル分けをしているI学科の中位クラス⁵⁾の層ではスコアの向上がある程度見られたと考えられる。

まとめると、少なくとも1年次のTOEICテスト対策教育は、オンライン授業にあっても、

5) 該当年度の中位レベルはTOEICスコア355点から505点の学生であった。

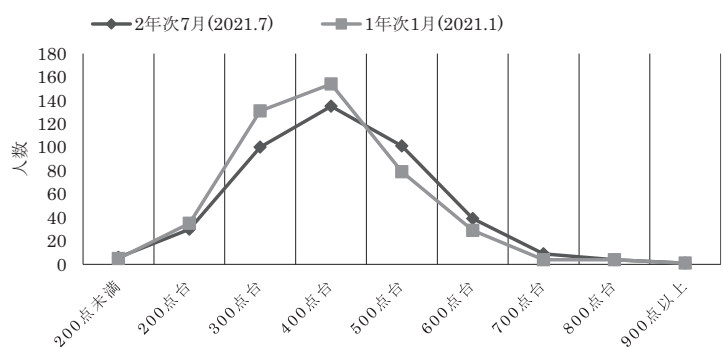


図1 2020年度入学生スコアの推移

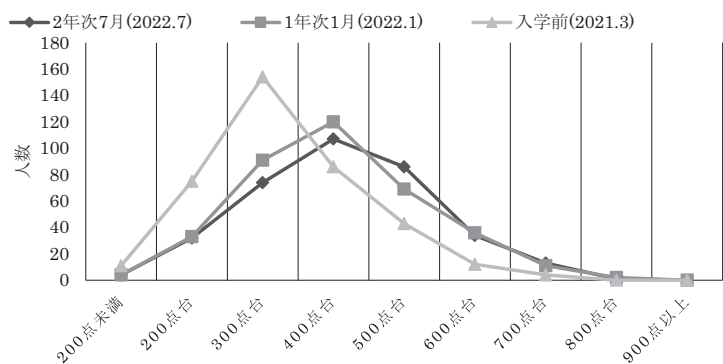


図2 2021年度入学生スコアの推移

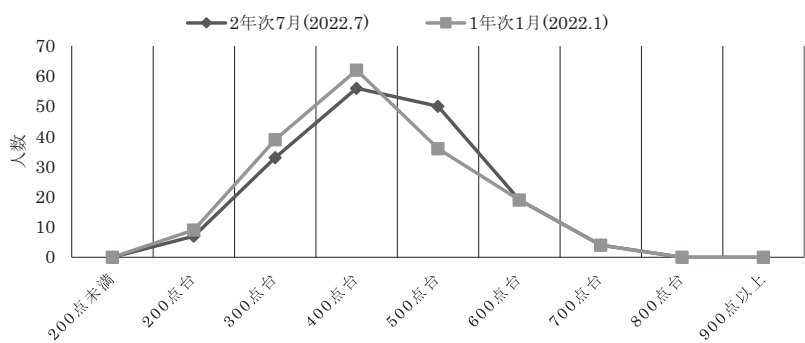


図3 2021年度I学科入学生スコアの推移

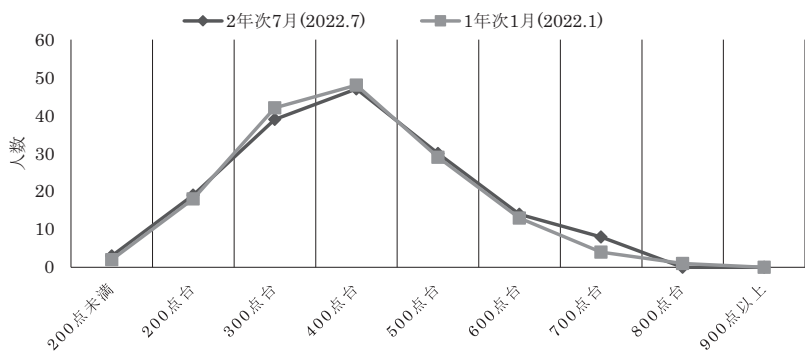


図4 2021年度PB学科入学生スコアの推移

例年対面授業で筆記の TOEIC テストに対するのと同じような IP-TOEIC スコアの伸び、つまり同じような効果をもたらしていると考えられる一方で、2 年次前期の授業では両学年度、どの学科でも GE231(1)の目標である50点のスコアアップは達成されていない。今後、レベル分けをしている I 学科で、使用テキストや授業内容を変更し、下位レベルを底上げし、上位レベルの英語力をさらに躍進させる取り組みが必要であるし、それが期待通りの成果をあげれば PB 学科のクラスをレベル分けすることも真剣に検討していくべきだろう。

4. 学生アンケート結果

いずれの年度も GE231(2)のコースの最後に、15か月の TOEIC テスト対策コースについて学生対象に Moodle[®] で任意回答のアンケートを行った。任意のアンケートであったので、回答率は高くなく、また 2 つの学年で集計数にはばらつきがあった⁶⁾。アンケートの結果の一部を以下に記載する。尚、以下のアンケート結果において2020年度生とするものは厳密には2021年度 GE231(1)履修者であり、2021年度生とするものは2022年度 GE231(1)履修者である⁷⁾。

表 4 GE231(1) Moodle ユーザー登録者数に対する回答者の割合

	2020年度生	2021年度生
ユーザー登録者数	442	360
アンケート回答者数	159 (36%)	47 (13%)

表 5 回答者の所属学科

	2020年度生回答数 159	2021年度生回答数 47
I 学科	84名 (53%)	21名 (45%)
P 学科	39名 (25%)	9 名 (19%)
B 学科	36名 (23%)	17名 (36%)

6) 2021年度生の回答が少ないのは対面授業となり、学生の Moodle[®] や Active!mail[®] (本学で使用しているウェブメールシステム) へのアクセスが減ったことが原因ではないかと考えられる。

7) 再履修生もユーザー登録されているので回答者に再履修生 (上級生) が含まれている可能性は否定できないことを付け加えておく。

4.1 選択式アンケート項目の結果

以下の表6から表9に選択式アンケートの結果を示すにあたり、回答者間のTOEICスコア分布には大きな偏りがなかったことを述べておく。回答者には自己申告で、TOEICテストのスコアを報告してもらったが、その結果実際のテストスコアの分布と大きな違いはなかった。

表6 『TOEIC® TEST 英文法出るとこだけ!』（1年次使用）のテキストについての難易度回答

	2020年度生回答数 159	2021年度生回答数 47
難しすぎた	3名（2%）	1名（2%）
やや難しかった	41名（26%）	16名（34%）
適切だった	101名（64%）	28名（60%）
やや簡単だった	7名（4%）	1名（2%）
簡単すぎた	—	1名（2%）
その他（分からない・覚えていない）	7名（4%）	—

表7 『TOEIC® TEST 英単語出るとこだけ!』（1年次前期から2年次前期の15か月使用）に関する単語アクティビティーとテストについての回答

	2020年度生回答数 159	2021年度生回答数 47
大いに役立った	17名（11%）	8名（17%）
やや役立った	104名（65%）	32名（68%）
あまり役立たなかった	34名（21%）	6名（13%）
全然役立たなかった	4名（3%）	—
その他（分からない・取り組んでいない）	—	1名（2%）

表8 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集1』（1年次使用）と『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集3』（2年次使用）についての難易度回答

	2020年度生回答数 159	2021年度生回答数 47
難しすぎた	10名（6%）	3名（6%）
やや難しかった	75名（47%）	21名（45%）
適切だった	72名（45%）	23名（49%）
やや簡単だった	1名（1%）	—
簡単すぎた	—	—
その他（分からない・覚えていない）	1名（1%）	—

表9 自主的なTOEIC対策への取り組み（授業課題以外）に関する回答

	2020年度生回答数 159	2021年度生回答数 47
取り組んだ	55名（35%）	22名（47%）
取り組まなかった	104名（65%）	25名（53%）

表6から表8について、授業で使用した教材はある程度適切で役立ったと考えられる。また表9について、自主学習に取り組んだ際使用した教材と取り組んだスキルについて詳しく尋ねた。2020年度生については、公式問題集など授業で使用した教材に自ら取り組んだ学生が21名、自主的に購入などした別の教材（アプリを含む）を使用した学生が21名、対策講座などに参加した学生が3名であった。何の勉強を行ったかについては、単語対策に取り組んだ学生が16名、シャドーイング練習などのリスニング対策をした学生が8名、文法の復習に取り組んだ学生が4名、リーディングに取り組んだ学生が2名、またパートは不明だが問題演習に取り組んだ学生が17名いた。2021年度生については、公式問題集など授業で使用した教材に自ら取り組んだ学生が9名、自主的に購入などした別の教材（アプリを含む）を使用した学生が11名、対策講座などに参加した学生が2名であった。さらに、単語対策に取り組んだ学生が9名、シャドーイング練習などのリスニング対策をした学生が4名、文法の復習に取り組んだ学生が4名、リーディングに取り組んだ学生が2名、またパートは不明だが問題演習に取り組んだ学生は2名であった。

4.2 自由記述式アンケート項目の結果

最後に TOEIC テスト対策オンライン授業についての感想とその他自由な意見とコメントを求めた。2020年度生で回答してくれた学生は72名で、その自由記述の結果を表10以下にまとめる。2021年度生については表11に記載する。彼女たちは1年次全てオンライン授業だったものの2年生前期は基本対面授業であったこともあり、コメントの内容は多少異なっている。

回答数は少ないものの、自由記述のアンケート結果から分かることは、全てオンライン授業で TOEIC 対策を行った2020年度生ではオンライン授業か対面授業のどちらがよいかについてほぼ同数で意見が分かれたのに対し、最後のセメスターに対面授業を受けた2021年度生では対面授業がよいという声がオンライン授業がよいという意見の約2倍となっていた。

今後考えるべき点として、授業運営の詳細な方法は各担当教員に任せているので、対面授業になってその差がより顕著に表れたようにもとれる。TOEIC 対策の対面授業を経験した学生には、否定的な意味で TOEIC の授業では対面の意味がないと思っている学生もいるようである。授業シラバスをよりよいものに変更すると同時に、担当教員の間で大きなばらつきがないよう、今後詳細な指導法についても実践と研究を重ね、より統一感を持たせていくよう検討していく必要がある。

表10 2020年度生の自由記述回答（72名回答）

オンライン授業か対面授業か？

- ・オンラインを好む（12名）：対面に対するオンライン授業の利点について述べたのは12名。理由としては自分のペースで勉強できる（8名）、復習しやすい（2名）、質問しやすい（1名）、体が楽（1名）
- ・対面を好む（13名）：オンラインよりも対面がよいと記述したのは13名。理由としてはオンラインでは身に付いた感がない・分かりにくさ・理解度の低さ（6名）、モチベーション・やる気・集中力維持の難しさ（6名）、視力の低下（1名）
- ・どちらでも構わない（1名）

Zoom かオンデマンドか？

Zoom かオンデマンドのどちらがよいか・悪いかについてコメントした学生は15名。

- ・Zoom を好む（5名）：Zoom の利点として質問しやすい（1名）、説明が分かりやすい（3名）、オンデマンドは不都合（4名：動画が途中で止まる（1名）、身に付いている感なし（1名）、集中力やる気の維持の難しさ（2名）、やるべきことをためてしまう（1名））
- ・オンデマンドを好む（7名）：オンデマンドの利点として、好きな時間に取り組むことができる（2名）、復習・繰り返ししやすい（2名）、自分のペースで勉強できる（3名）、理解が深まる（1名）、Zoom だと学生間で授業参加度に温度差がある（1名）

授業全体についてよかった点

17名の回答があった。

- 単語テストが単語覚えるのによかった（3名）、テキスト（教材）がよかった（3名）、TOEIC テストについて知れた・練習になった・コツが分かった（8名）、100点以上スコアアップした（3名）、英語学習のモチベーションとなった（1名）、リスニングがよかった（1名）

授業全体に対する改善点

6名の回答があった。

- 先生による授業のやり方の違い（1名）、レベルが高く難しい（1名）、受講者のレベルの差（1名）、単語システムの改良を求む（2名）、その他（1名）

各担当教員に対するコメント

- ・良かった（13名）：丁寧・解説や資料わかりやすい（9名）、課題の量が適切（2名）、質問へきちんと回答してくれる（1名）
- ・悪かった（4名）：物足りない・もっと教えてほしい（2名）、課題の量多いが役に立たない（2名）

その他

- 自分への気づきとなった（3名）、TOEIC オンラインテストについてのコメント（3名）、2年次には勉強時間がなかった（1名）

表11 2021年度生の自由記述回答 (35名回答)

オンライン授業か対面授業か？

- ・オンラインを好む (6名)：オンラインの方が集中できる環境が整っていた (3名)、TOEIC テストがオンラインなのでオンライン授業の方が適切に感じた (1名)、授業内容は対面でもオンラインでもあまり変わらないので、それならオンラインで十分 (2名)
- ・対面を好む (13名)：オンラインよりも対面がよいと記述したのは13名。理由としては、対面の方が分かりやすい (6名)、質問がしやすい (3名)、集中しやすい (3名)、刺激になる (1名)、リスニングは対面がいい (1名)、オンラインでは身に付いた感がない (1名)
- ・どちらでも構わない (5名)：オンラインの授業も充実している (2名)、対面の授業でもたいしたことがないのでオンラインで十分 (3名)

Zoom かオンデマンドか？

- ・オンデマンドを好む (2名)：気分転換になる (1名)、自分のペースで勉強できる (1名)

授業全体についてよかった点

8名の回答があった。

- 単語テストが単語を覚えるのによかった (3名)、テキスト (教材) がよかった (1名)、TOEIC テストについて知れた・練習になった・コツがわかった (4名)、100点以上スコアアップした (1名)、英語学習のモチベーションとなった (1名)

授業全体に対する改善点

7名の回答があった。

- 先生による授業のやり方の違い (1名)、授業進度が遅い (1名)、文法がもっとほしい (1名)、単語システムの改良を求む (3名)、その他 (1名)

各担当教員に対するコメント

- ・良かった (5名)：丁寧・解説や資料わかりやすい (4名)、質問へきちんと回答してくれる (1名)、勉強のきっかけを与えてくれた (1名)
- ・悪かった (3名)：説明が多すぎて解く問題が少ない (2名)、オンラインで会話に苦勞 (1名)

5. 最後に

本稿では15か月にわたるコロナ禍での TOEIC テスト対策授業について、授業内容、学生のスコアと学生へのアンケートという視点から振り返った。スコアアップや教材の観点からある程度オンライン授業でも成功したと言えるが、大きな改善すべき課題として、2年生前期でのスコア全体の伸びの停滞を解決することがあげられる。今後の研究の方向性としては、学生の入学時のスコア別・レベル別で、スコアの伸びをより個別に検証・研究し、より詳しい学生へのアンケート・聞き取り調査を通じて、レベル別でのより効果の高い TOEIC テスト対策コース、ひいては英語の教育方法・シラバスを構築していくことが求められると考える。今後、コロナの収束に伴い、授業も対面に戻っていくことが考えられるが、オンラインで培った方法も引き続き活用しつつ、ハイブリッドな形での新しい方法を模索していきたい。そのための足掛かりとして、本稿を2年間のオンライン授業の記録としてまとめた次第である。

参考文献

赤松信彦 (編) (2018). 『英語指導法理論と実践—21世紀型英語教育の探求』 英宝社.

- English Testing Service (2016). 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 1』 国際ビジネスコミュニケーション協会.
- English Testing Service (2017). 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 3』 国際ビジネスコミュニケーション協会.
- 門田修平・野呂忠司・氏木道人（編）（2010）. 『英語リーディング指導ハンドブック』 大修館書店.
- 神戸女学院大学共通英語教育研究センター（2020）. 『共通英語教育研究センター活動報告書 Vol. 2』 神戸女学院大学共通英語教育研究センター.
- 小石裕子（2016a）. 『TOEIC® TEST 英単語出るところだけ！』 アルク.
- 小石裕子（2016b）. 『TOEIC® TEST 英文法出るところだけ！』 アルク.
- 小泉利恵（2018）. 『英語 4 技能テストの選び方と使い方—妥当性の観点から—』 アルク.
- 国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC L&R IP テスト（オンライン）受験のしおり」 以下より
閲覧可能：https://www.iibc-global.org/library/default/toeic/corporate/lrip_online/pdf/iponline-jyukenkankyo.pdf
- McNamara, T. (2000). *Language Testing*. Oxford University Press.
- 望月正道・相澤一美・投野由紀夫（2003）. 『英語語彙の指導マニュアル』 大修館書店.

（原稿受理日 2022年 9 月21日）